

## 「横浜上海友好都市提携」・「協会中国語講座開設」45周年記念

### 上海師範大学「体験短期留学」29名で実施

8月24日(金)～30日(木)の日程で上海師範大学老年大学と連携し「体験短期留学」を中国語講座生、会員合計29名の参加で実施しました。

8月下旬とは言え“悶熱”雨模様のなか中国語の学習、相互学習交流を実施するとともに一泊旅行は、天候には恵まれたものの猛暑の宁波、紹興地方への旅行となりました。協会の中国語講座で学習した成果を上海の現地で実践し、有意義な体験を行ってきました。

今回は、若い人達の参加も多く、大学キャンパスに記念植樹した「樟の木」とともに日中友好に根を張り、大きく成長することを期待したいと思います。また、来年は、上海師範大学老年大学で日本語を学ぶ学生を中心に横浜で再会、相互学習交流を実施することをお互いに約束しました

#### ◇8月24日(金) 交流晚餐会を開催 ◇

七宝古鎮を散策の後、交流晚餐会を開催しました。上海師範大学老年大学の阮校長先生、上海市人民対外友好協会の曹日本处处长、郭常務理事が参加され歓迎の挨拶を頂きました。

山口副会長からは、託された飯田会長のメッセージを披露するとともに、私たちが快く受け入れて頂いたことに対するお礼とこの一週間、更なる相互交流を深めたい旨の挨拶をしました。

また、準備の段階から大変お世話になっています上海師範大学老年大学呉老師、日中学術文化交流センターの楊理事長からも丁寧な歓迎のあいさつを頂きました。一番若い講座生の乾杯の音頭で交流晚餐会が始まり、上海初日の緊張と疲れを癒しました。



＜メッセージを披露する山口副会長(左)  
師範大学老年大学院校長(中央)と呉老師＞

#### ◇8月25(土)～27日(月) 中国語学習、相互学習交流を実施 ◇



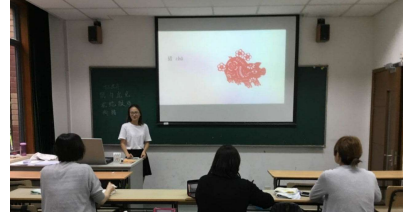
中国語学習指導の老師達(大学院生)

学習集中班(3班)、相互学習交流班(3班)に分かれ、2日半に渡る学習を開始。先生は、上海師範大学の日本語が全くできない若い大学院生が担当。最初はややお互いに緊張感があつたものの熱心な指導で「学習中文」が進みました。

相互学習交流班は、午後は老年大学日本語学科の学生と中国語と日本語での交流に話が弾みました。また、休み時間を利用して中国人は浴衣、日本人は旗袍を試着して記念撮影。

講義が終えた後は、自由時間でグループ毎に地下鉄やバスを利用して観光スポットの散策、街中のレストラン等で食事やスーパーで買い物等つかの間の市民生活を体験しました。

外国語学院での中国語の学習風景



◇記念植樹（27日午後）◇ 27日の午後は、上海師範大学奉賢キャンパスで「樟の木」の記念植樹。国際交流処武処長の挨拶ににあった「日中友好 万古長青」を心に籠め皆で植樹、記念写真撮影を行いました。



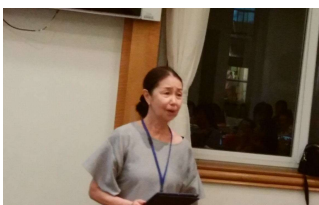
(全員で記念撮影)



(師範大学国際交流処武処長と呉老師)

◇答礼の晩餐会（27日晚上）◇

大学構内の学思園で、先生、日本語学科の学生と一緒に答礼の晩餐会を開いた。今年は、事前に練習した「大海啊，故乡」や「ハナミズキ」を披露、自作自演歌、浜辺の歌の独唱や会津磐梯山更には、盆踊りを披露するなど大学側を圧倒する勢いで交流、歓談が進んだ。最後に、参加者全員で「ふるさと」を合唱して閉会した。これで学習交流活動は終了し、明日はA班が帰国。



「みかんの花咲く丘」を独唱する講座生

「その人の名を私は知らない。」詩を朗読する学生の王さん



「北国の春」を披露する老練組と楊さん

## < 寧波（28日） >

A日程班は、夕方の方までは自由時間としそれぞれ空港へ向かう。B日程班は、一泊旅行（寧波一泊、紹興）に出発。「导游」は元気な楊さん、呉老師、日本語学科の学生も同行して活発な交流をしながらの旅が始まりました。道元禪師が修業した天童寺で精進料理を食し境内を見学、茶室で僧侶の話聞きながら二杯のお茶を飲み黙想、更に一杯のお茶を飲み一時心身を和らげた。天一閣、天后宮等を見学してホテルへ。

晩飯は、楊さんの心使いか、中国料理を避けタイ料理（蕉叶店）で体重増も忘れ、またまた良く飲み、良く食べ、踊るのも疲れ知らずの皆さんでした。

（天童寺）



（僧侶の話聞き、お茶を飲み、暫し黙想）



## < 紹興（29日） >

二日目は、魯迅の故居（記念館等）見学、紹興酒工廠（咸亨酒業）で、“きき（紹興）酒”。

魯迅（1881-1936）は、現東北大学に留学するなど日本でも馴染みのある中国の小説家、翻訳家、思想家です。ガイドの案内と説明に耳を傾ける。

晩飯は、紹興料理と紹興酒を味わい上海に戻る。兎に角“秋老虎”（厳しい残暑）の一泊旅行でした。



（魯迅記念館での集合写真）

「思うに、希望とは、もともとあるものだともいえぬし、ないものだともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上には、道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ」

我想：希望本是无所谓有，无所谓无的。这正如地上的路；其实地上本没有路，走的人多了，也便成了路。

短編小説「故郷（魯迅）」の末尾より

< 明日30日 > もう帰国。Face to face の学習交流の名残を惜しみながら、B日程班（18名）が夕方の方で帰国の途に就きました。

<浴衣と旗袍の試着で交流>

对不起！紙面の都合で最後になりました。



※9月15日(土)参加者全体で反省会開催しました。

また、上海師範大学の学生、院生（担当老師）及び参加者の記録と感想文集を作製しました。

(以上、編集・作製 小松崎)